

<形成外科>

A.一般目標

外傷・熱傷等の救急処置や重症度の判断および形成外科領域に関連した基本的な知識、態度、技能を習得し、頻度の高い疾患に対応できる能力を養う。

B.行動目標、方法および評価

行動目標		研修方法	評価方法
身体診察法	熱傷面積、深達度を判定し、所見を記載する	実習、講義	カルテ評価 口頭試問
	顔面外傷を診察し、所見を記載する	実習、講義	カルテ評価 口頭試問
	褥瘡を診察し、所見を記載する	実習、講義	カルテ評価 口頭試問
	皮膚腫瘍を診察し、所見を記載する	実習、講義	カルテ評価 口頭試問
基本的な臨床検査	下記の検査を適切に依頼し、結果を解釈する		
	単純エックス線検査（特に顔面骨）	実習、自習	観察、 口頭試問
	＊下記の検査を適切に依頼し、専門家の意見を参考に結果を解釈する		
	病理組織診断	実習、自習	観察
	C T 検査	実習、自習	観察
	M R I 検査	実習、自習	観察
基本的手技	局所麻酔法（浸潤、伝達）を実施する	実習	観察
	簡単な皮膚切開・排膿を実施する	実習	観察
	止血法（圧迫、結紮、電気凝固）を実施する	実習	観察
	愛護的な皮膚縫合法を実施する	実習	観察
	抜糸を実施する	実習	観察
	熱傷の局所処置を実施する	実習	観察
基本的治療法	熱傷深達度に応じた外用薬物治療を行う	実習、講義	口頭試問
	褥瘡の状態に応じた外用薬物治療を行う	実習、講義	口頭試問
	褥瘡リスクアセスメントを行う	実習、講義	カルテ評価
	植皮と皮弁の適応と特徴を理解する	講義、自習	口頭試問

行動目標		研修方法	評価方法
頻度・緊急度の高い症	切創・挫創	実習	観察
	挫傷	実習	観察
	顔面腫脹（打撲・骨折）	実習、講義	観察
	皮膚化膿性炎症	実習	観察
	皮膚潰瘍	実習、講義	口頭試問
経験すべき疾患	☐ 熱傷	担当医として実習	カルテ評価口頭試問
	☐ 顔面骨骨折	経験	口頭試問
	☐ 皮膚良性腫瘍	経験	口頭試問
	☐ 皮膚悪性腫瘍	経験	口頭試問
	☐ 表在性色素性皮膚疾患（いわゆる「あざ」）	経験	口頭試問
	☐ 外表面先天奇形	経験	口頭試問
	☐ ケロイド・肥厚性瘢痕	経験	口頭試問
	☐ 褥瘡	担当医として実習	カルテ評価口頭試問
	☐ 陥入爪	経験	口頭試問

☐ A：入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを提出すること

☐ B：外来診療又は受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験すること

☐ C：機会があれば経験すべき疾患

☐ D：自ら実施し、結果を解釈できること

☐ R：レポートを提出すること

＜形成外科＞週間スケジュール

	月	火	水	木	金
本日の担当医	A	B	A	B	A
8:45－9:00	今週の研修目標 今日の予定確認	今日の予定確認	今日の予定確認	今日の予定確認	今日の予定確認
9:00－12:30	担当医外来診察 において実習	担当医外来診察 において実習 担当医回診に同行	担当医外来診察 において実習	担当医外来診察 において実習 担当医回診に同行	担当医外来診察 において実習
昼休み					
13:30－15:00	中央手術室に て見学・助手	外来小手術 レーザー治療	中央手術室に て見学・助手	外来小手術 レーザー治療	レーザー治療
15:00－17:30	中央手術室に て見学・助手	講義・自習	中央手術室に て見学・助手	講義・自習	講義・自習 症例検討会 今週のまとめ

付記

- ☐ 熱傷患者を経験し、診断、局所と全身管理などを習得する
- ☐ 褥瘡患者は必ず経験し、診断、局所と全身管理などを習得する
- ☐ 手術に際し、積極的に助手を努める

- | | |
|--|------------------|
| ☐ 熱傷の診断と治療 | 担当：A（ 月 日） |
| ☐ 褥瘡予防（褥瘡リスクアセスメント） | 担当：A（ 月 日） |
| ☐ 褥瘡保存的治療（褥瘡局所アセスメント） | 担当：A（ 月 日） |
| ☐ 顔面外傷の診断と治療（単純エックス線検査） | 担当：A（ 月 日） |
| ☐ 皮膚腫瘍の診断 | 担当：B（ 月 日） |
| ☐ 皮膚縫合（形成外科的・真皮縫合） | 担当：B（ 月 日） |